

八重山地方各地で観測史上最も暑い冬

冬(2018年12月～2019年2月の3か月)の沖縄地方の地域平均気温平年差が+1.9℃で、統計を開始した1947年以来最も高い記録を更新しました。また、沖縄周辺海域の海面水温平年差は、東シナ海南部海域で+1.3℃(速報値)、沖縄の南で+1.4℃(速報値)と海面水温の解析値が存在する1983年以降で最も高くなりました。八重山地方各地の冬の平均気温の平年差についても、石垣島で+2.1℃、西表島で+1.9℃、与那国島で+1.7℃といずれも統計開始以来、最も高い記録を更新しました。

2019年冬(12月～2月)の沖縄地方の平均気温
と沖縄周辺海域の平均海面水温

	平年差 (℃)	順位
2019年冬(12月～2月)の 沖縄地方の平均気温	+1.9	1位
東シナ海南部海域の平均海面水温	+1.3	1位
沖縄の南の海域の平均海面水温	+1.4	1位

2019年冬(12月～2月)の
八重山地方各地の平均気温

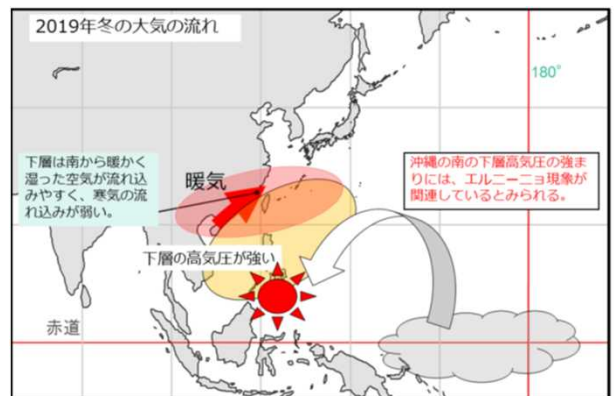
	平均気温(℃)	平年差(℃)	順位
石垣島	21.3	+2.1	1位
西表島	20.8	+1.9	1位
与那国島	20.7	+1.7	1位

要因は、エルニーニョ現象が関連！

沖縄の南では平年に比べ下層の高気圧が強まり、沖縄付近には南からの暖かい空気が流れ込みやすく、また北からの寒気の流入が弱かったため、沖縄周辺では海面水温の低下が抑えられました。

3か月予報で予測していた！

2018年11月に沖縄気象台が発表した沖縄地方の12月～2月の「3か月予報」では、「寒気の影響を受けにくく、向う3か月は、平均気温は高いでしょう。」と予想していました。



2019年冬の大気の流れ（沖縄付近）

もう始まっています！ 地球温暖化

二酸化炭素（CO₂）などの温室効果ガスの増加に伴い、沖縄地方でも温暖化が確実に進行しています。石垣島地方気象台100年以上の観測データからも、この温暖化傾向が表れています。このままのCO₂排出が続くとした場合、将来、気温はさらに上昇し、大雨も増えると予測されています。省エネルギーにつとめる（緩和策）だけでなく、温暖化を見越した対策（適応策）が必要になってきています。沖縄地方の温暖化への理解を進めていただくために、21世紀末における気温と降水の予測等を取りまとめたリーフレットを作成しましたので、ご活用してください。

★ リーフレット「もう始まっています！ 地球温暖化」～八重山地方版～
http://www.jma-net.go.jp/okinawa/data/kiko/leaflet_yaeyama.pdf



防災気象情報は、テレビ・ラジオ・またはホームページから

石垣島地方気象台ホームページ <https://www.jma-net.go.jp/ishigaki/>

※ ホームページは、スマートフォン対応済みです。

お問い合わせ先：石垣島地方気象台 電話番号：0980-82-2159

石垣島地方気象台はこちらから



気象庁マスコット
はるるん

【2019年4月号】